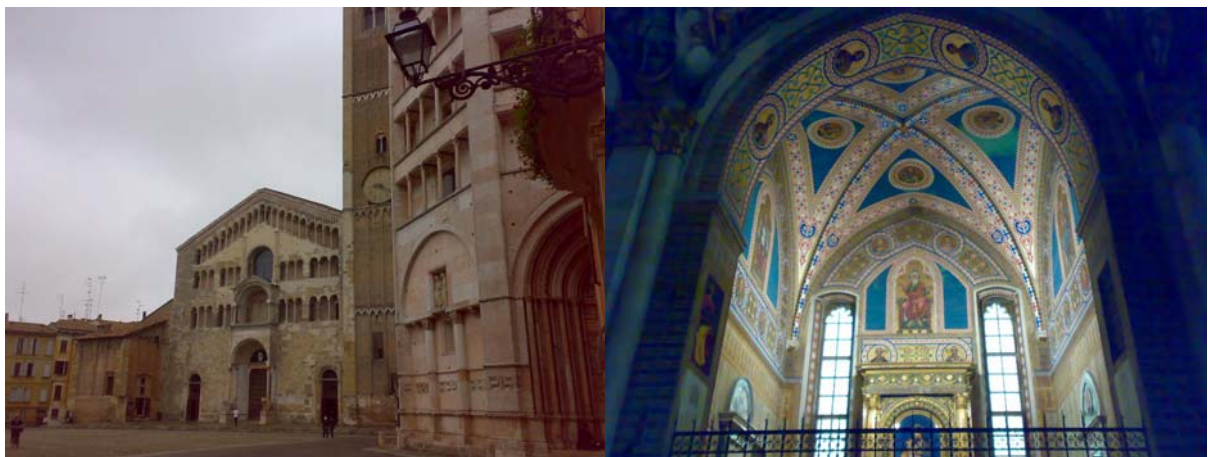


パルマ、Parma

パルマといえば、生ハムとパルミジャーノ・レッジャーノ・チーズ（パルメザン・チーズ）、ちょっと古いですが中田英寿のサッカーが思いうかびますが、もちろん、それだけではありません。パルマの歴史地区はイタリアが世界遺産の暫定リストに入れているように貴重なものなのです。それらに加えて、有名な音楽家や画家がこの街で生まれています。自由都市、フランス支配、オーストリア支配の下で多くの文化が融合して今のパルマが生まれていますので、芸術の街でもあるのです。今までパルマには、立ち寄るか通過してしまうだけで、ちゃんと観光したことがありませんでしたが、それではもったいないような街だったので。将来は世界遺産として登録される可能性もあります。今回は、朝早く家を出て、パルマを、午前中（美術館は1時半まで）かけてじっくり見て来ました。

朝、9時にパルマに着くと、生憎の雲空でしたが、駅前からピロッタ宮殿にかけて土曜日の市が開かれ、人並みでごった返していました。冬物の洋服、靴、雑貨に加えて、もちろん、生ハムやチーズも売っていました。ここには、毎週土曜日に市が出るそうです。活気に満ちた市を何も買わずに通り返して、続くピロッタ宮殿も通り過ぎて、まずは、ドウオモ広場へと向かいました。パルマのドウオモはロンバルディア・ロマネスク建築の傑作といわれています。その隣にはピンク色の大理石が印象的な洗礼堂があります。ドウオモ広場は、カフェも無く、本当に何も無い広場ですが、この2つの建物があれば何も要らないのかもしれませんが。洗礼堂の入口上部（タンパン）の彫刻が特に印象に残りました。もちろん、外観だけでなく、中に入っても素晴らしいフレスコ画があります。確かに、この2つの建物は、非常に貴重な歴史的な遺産であると感じました。





ドウオモ裏には、聖ジョバンニ・エヴァンジェリスタという長い名の修道院があります。数人の修道女が出入りをしていたので、その入口から中に入ってみると、ここにもドウオモと同様にすばらしいフレスコ画がありました。



パルマで単に広場（ピアッツァ）といえば、ガリバルディ広場をさすとのこと。大通りを挟んだ両側にある大きな広場にたくさんの人がたむろしています。周りには店がいっぱいあり、誰が見ても、ここがパルマの中心であることがわかります。生ハムやサラミの有名な店もこの近くにあります。パルマは、歴史的な建物や食だけでなく芸術においても一流です。ナポレオンの御后であるマリア・ルイーザがパルマを公国としたときに建てたテアトロ・レージョはオペラの殿堂です。また、ピロッタ宮殿の中にはファ

ルネーゼ劇場もあります。

絵画においても、ピロッタ宮殿の国立絵画館は、所謂パルマ派と呼ばれる多くの芸術家の作品が数多く残っていてすばらしい美術館でした。残念ながら、撮影禁止なので、写真は取れませんでした。パルミジャーノの「トルコの女奴隷」は立ち止まって見入ってしまいました。パルマは、歴史建造物、食、芸術に加えて、街の中に川と公園もあり、それぞれが質も高くしかも全体が調和されているすばらしい街であることを再認識しました。しかも、街には活気があり、静と動を同時に感じる街でもあります。また、お気に入りの街が一つ増えてしまいました。



パルマへはロゴレドから、朝の7時34分から約2時間に1本の普通列車が出ています。所要時間は1時間20分で金額は片道8ユーロです。他の街も同様ですが、教会は、午前中は12時半以降午後3時まで入ることが出来ません。また、パルマのピロッタ宮殿の美術館は午後1時半以降閉まってしまいます。従って、午前中にパルマに入って、午後1時半までに観光するように計画したほうが良いと思います。その場合、帰りの列車は午後2時台と4時台に列車はありませんので、午後1時、3時から5時の列車になります。ミラノから近いですし、交通の便も良いので、1時半までに観光を終わらせて、カフェかレストランで、パルマ自慢のサラミや生ハムとチーズを食べて、3時の列車でミラノに戻るのがお勧めです。